

地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について

令和 7 年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について、中部運輸局へ別紙のとおり報告します。

◇事業評価について

中津川市では、国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業」を活用して、公共交通の確保維持に取り組んでいます。国の地域公共交通確保改善事業による支援を受けた事業については、毎年度、公共交通会議自らによる事業の実施状況の確認、自己評価を行い、その結果を地方運輸局に報告することとされています。

◇事業期間

令和 6 年 1 0 月～令和 7 年 9 月

◇自己評価資料について

- ①自己評価（一次評価）作成様式 ・ ・ ・ 別添 1、別添 1－2
- ②中部運輸局作成様式 ・ ・ ・ 中部様式

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月13日

協議会名: 中津川市公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

A: 運行割合100%
B: 運行割合90～99%
C: 運行割合～89%

A: 達成率100%～
B: 達成率90～99%
C: 達成率～89%

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を 受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したかを 記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり 実施されなかった場合には、理 由等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量的な目 標・効果が達成されたかを、目標ごと に記載。目標・効果が達成できなかつ た場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記 載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結 果を生活交通確保維持改善計画にどのように反 映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず 記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 福岡線	【福岡地区】 ・地区バス検討会議を開催し、意見交換を行った。 ・無料乗車キャンペーンに合 わせておでかけレバトリーの 配布を実施した。 【坂下地区】 ・地元と協議を重ね、R4.10 から路線、運行日等を見直 した。 ・変更について広報を活用し ながら地域に周知し、利用を 呼びかけた。 ・学生が使いやすい路線と なるよう地域と協議を行い、 ルートの再編を検討。	A 運行は計画どおり適切に実施さ れた。 【計画運行回数】 1,204回 【実績運行回数】 1,204回 【運行割合】 100%	A 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標/476人以上 実績/596人(達成率125.2%) 昨年度/621人(達成率130.5%) 【考察・利用状況】 利用者は高齢者は中心で、地域内での 買い物や通院に利用されている。無 料キャンペーンを実施した月もあり、目 標値は達成しているものの、利用者数は 昨年度より伸び悩んでいる。	引き続き無料乗車キャンペーン等の企 画を通じてコミバスの周知を行う。 バス停の位置やルート、運行方法が適 切かどうか地区と意見交換を行う。
北恵那交通株式会社	【坂本・中津地区】 坂本三坂線	【地域公共交通計画との関 連】 ・地域公共交通計画に基づ いて事業を実施した。特に 生活交通確保維持改善計 画に関係する主な事業は次 のとおり。 ①高校生のバス通学を支援 します(計画P14参照) 一補助金の拡充について、 広報等を活用して周知し、多 くの生徒に利用された。 ②公共交通の運行を継続し ます(計画P.18参照) 一補助対象系統を含め、市 内9地区でコミュニティバス を運行(補助対象系統は4地 区12系統) ③公共交通の利用促進に向 けた取り組み(計画 P.25参 照)	B 運行はおおむね計画どおり適切 に実施された。(夏祭り等による 運休あり) 【計画運行回数】 1,455回 【実績運行回数】 1,452回 【運行割合】 99%	A 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標/15,250人以上 実績/21,365人(達成率140%) 昨年度/21,433人(達成率140.5%) 【考察・利用状況】 ・沿線地区の企業へ通勤する方の利 用が多く、定期的に利用されている。	・東鉄バス中津川線(中津川駅前～美 乃坂駅前～恵那駅前)の廃止により R3.4から運行を開始した。 ・順調に運行・利用されており、運行状 況の継続的な把握により、更なるサー ビス向上に努める。
北恵那交通株式会社	【坂本・中津地区】 坂本三坂線(市民病院経由)	一既存路線バスを活用した 観光商品開発を行い、デジ タルチケットを導入した。 一中津川駅前と苗木城バス 停のフリー乗車券を引き続 き発売。地域資源との連携 につながる路線となった。	A 運行は計画どおり適切に実施さ れた。 【計画運行回数】 240回 【実績運行回数】 240回 【運行割合】 100%	A 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標/3,115人以上 実績/4,591人(達成率147.3%) 昨年度/2,921人(達成率93.8%) 【考察・利用状況】 ・沿線地区の地域住民の買い物や通 院利用が多い。	
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野線	一既存路線バスを活用した 観光商品開発を行い、デジ タルチケットを導入した。 一中津川駅前と苗木城バス 停のフリー乗車券を引き続 き発売。地域資源との連携 につながる路線となった。	A 運行は計画どおり適切に実施さ れた。 【計画運行回数】 121.5回 【実績運行回数】 121.5回 【運行割合】 100%	A 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標/1,027人以上 実績/1,632人(達成率158.9%) 昨年度/1,189人(達成率115.8%) 【考察・利用状況】 ・郊外、地元Uターンの方や若年層の 増加に伴い、通学で利用する児童・生 徒の利用が増加した。	早朝の便であり、地域の学生が通学で 利用しているため、通学者の増減が利 用者数に影響してくる。 上野地区では郊外、地元Uターンの方 や若年層が増えていることから、子ど もの人口が増えているため、引き続き 利用される見込み。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野線(きりり坂下経由)		A 運行は計画どおり適切に実施さ れた。 【計画運行回数】 98回 【実績運行回数】 98回 【運行割合】 100%	C 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標/1,027人以上 実績/43人(達成率4.1%) 昨年実績/100人(達成率9.7%) 【考察・利用状況】 ・火木運行のため、従来の「上野線」と 比べ、利用者は少ない。 ・高齢者などの日中の買い物のために 利用されているが、年齢的に歩行やバ スに乗りすることが困難な方が増加。	高齢者の買い物や通院のための路線 であるが、昨年度と比較すると利用者 数は半分以下になっている。 年齢や体力的にバスへの乗車が困難 な方が増加したのが影響しているかと 考えられるが、地域広報での周知や無 料乗車キャンペーン等新規利用者の 獲得に努める。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線		A 運行は計画どおり適切に実施さ れた。 【計画運行回数】 243回 【実績運行回数】 243回 【運行割合】 100%	A 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とす る。 目標/1,656人以上 実績/1,912人(達成率115.4%) 昨年度/1,603人(達成率96.8%) 【考察・利用状況】 ・郊外、地元Uターンの方や若年層の 増加に伴い、下校の児童・生徒の利用 が増加した。	学生の下校の際に利用されている路 線になり、上野線と同様に子どもの人 口増加に伴い、利用者数が増加してい ると考えられる。 利用者数は伸びているが、乗客がい ない便もあるため、地元や事業者と協 議し、改廃を検討する必要がある。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線(短縮ルート)		A 運行は計画どおり適切に実施さ れた。 【計画運行回数】 121.5回 【実績運行回数】 121.5回 【運行割合】 100%	A 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とす る。 目標/1,989人以上 実績/3,014人(達成率151.5%) 昨年度/2,126人(達成率106.9%) 【考察・利用状況】 ・郊外、地元Uターンの方や若年層の 増加に伴い、下校の児童・生徒の利用 が増加した。	

株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・合郷線		A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 290回 【実績運行回数】 290回 【運行割合】 100%	C	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標／455人以上 実績／119人(達成率26.1%) 昨年実績／171人(達成率37.6%) 【考察・利用状況】 ・毎日運行から月水金運行になったことで、目標値は未達成。 ・高齢者などの日中の買い物のために利用されているが、年齢的に歩行やバスに乗りすることが困難な方が増加。	地域の要望により、R4.10から運行しているルートだが、利用者数は減少傾向にある。 他地区同様、年齢や体力的にバスへの乗車が困難な方の増加や地域住民が買い物で利用する商業施設で金曜日に無料送迎バスが出ていることが利用者減の要因かと考えられる。 地域広報での周知や無料乗車キャンペーン等新規利用者の獲得に努める。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(上り)		A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 121.5回 【実績運行回数】 121.5回 【運行割合】 100%	A	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標／1,635人以上 実績／3,711人(達成率226.9%) 昨年度／2,973人(達成率181.8%) 【考察・利用状況】 ・郊外、地元Uターンの方や若年層の増加に伴い、通学の児童・生徒の利用が増加した。	上野線同様、地域の学生が通学で利用しているため、通学者の増減が利用者数に影響してくる。 郊外、地元Uターンの方や若年層が増えていることから、子どもの人口が増えているため、引き続き利用される見込み。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(上り)(きりら坂下経由)		A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 72.5回 【実績運行回数】 72.5回 【運行割合】 100%	C	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標／1,635人以上 実績／185人(達成率11.3%) 昨年実績／289人(達成率17.7%) 【考察・利用状況】 ・高齢者などの日中の買い物のために利用されているが、年齢的に歩行やバスに乗りすることが困難な方が増加。	高齢者の買い物利用のための路線であるが、昨年度と比較すると利用者数は減少している。 年齢や体力的にバスへの乗車が困難な方が増加したのが影響しているかと考えられるが、地域広報での周知や無料乗車キャンペーン等新規利用者の獲得に努める。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(下り)(きりら坂下経由)		A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 72.5回 【実績運行回数】 72.5回 【運行割合】 100%	C	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標／261人以上 実績／56人(達成率21.4%) 昨年実績／121人(達成率46.4%) 【考察・利用状況】 ・毎日運行から月水金運行になったことで、目標値は未達成。 ・高齢者などの日中の買い物のために利用されているが、年齢的に歩行やバスに乗りすることが困難な方が増加。	地域の要望により、R4.10から運行しているルートだが、利用者数は減少傾向にある。 他地区同様、年齢や体力的にバスへの乗車が困難な方の増加や地域住民が買い物で利用する商業施設で金曜日に無料送迎バスが出ていることが利用者減の要因かと考えられる。 地域広報での周知や無料乗車キャンペーン等新規利用者の獲得に努める。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 西方寺・握・高部線		A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 196回 【実績運行回数】 196回 【運行割合】 100%	C	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標／404人以上 実績／231人(達成率57.1%) 昨年実績／184人(達成率45.5%) 【考察・利用状況】 ・毎日運行から火木運行になったことで、目標値は未達成。 ・沿線の空き家が目立つようになり、世帯が減少傾向にあるが、一定数高齢者の利用がある。	利用者は昨年度よりも増加しているため、引き続き利用してもらう。また地域広報での周知や無料乗車キャンペーン等新規利用者の獲得に努める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月13日

協議会名：	中津川市公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>中津川市は岐阜県の東南端に位置し、山間部に集落が点在する中山間地域で豊かな自然と美しい景観に恵まれたまちです。</p> <p>市の東南部にJR中央線を有するが、中心地域以外は路線バスがほぼ唯一の交通手段となっています。しかしながら、自動車利用の増加に加え、人口減少や少子高齢化によって公共交通の利用者が減少していること、また運転手不足の影響により、交通事業者の経営努力だけでは公共交通網の維持が困難になりつつあります。</p> <p>地域の交通体系におけるマイカーの重要性を認識しながら、利便性が高い公共交通ネットワークを実現し、複数の交通機関が役割を分担し、誰もが行きたいときに行きたい場所に行ける持続可能な公共交通網の構築を目指します。</p>

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要(全体)

中津川市地域公共交通会議 (中津川市)

平成20年6月4日設置

令和3年6月18日 フィーダー系統 確保維持計画策定

令和4年1月20日 中津川市地域公共交通計画へ移行
(計画期間：平成30年4月～令和9年3月)

令和8年1月 日 令和7年度評価結果送付

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

中津川市の地域公共交通を取り巻く課題

①利用者の減少で地域公共交通網の維持が困難に

- ✓ 人口減少・高齢化（国調△2,313人、高齢化率32.9%）
- ✓ 東濃鉄道(株)が市内から撤退
- ✓ 路線により利用の差が激しい

②誰もがわかりやすい公共交通となっていない

- ✓ バスによるおでかけ情報発信が不十分

③運転手不足で地域公共交通網の維持が困難に

- ✓ 運転手高齢化、現役世代引退後に労働力不足の恐れ

中津川市地域公共交通計画（2022.1改定）

■基本方針

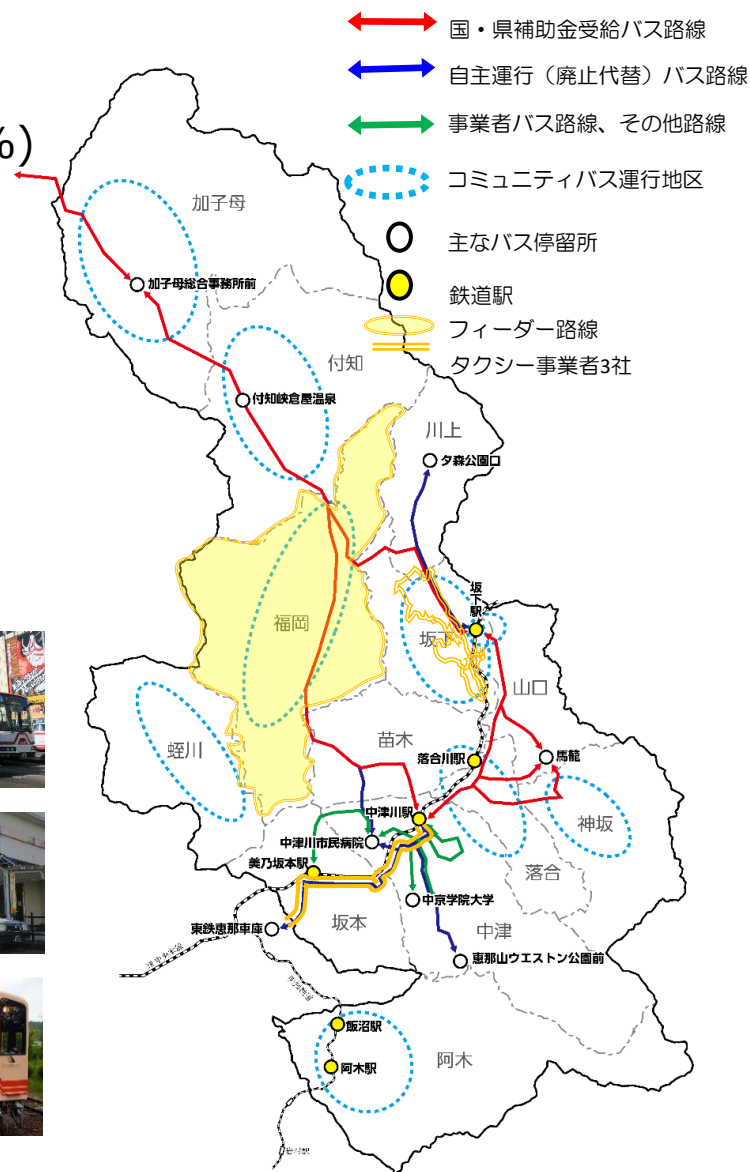
- ✓ 住んでよかった、住んでみたい街に

■目標

- ✓ 住み続けられる街に
～定住を支える公共交通
- ✓ 来てよかった、また来たい街に
～観光と利用促進
- ✓ 運転手不足解消に向けて
～誰もが活躍する街に

■期間

- ✓ 2018年度～2026年度までの9年間



目指す姿とは 利用者を確保し地域公共交通網を維持。公共交通で安心して移動できる。そして…
いつまでも定住できる街に！住みたくなる街に！

■ 地域公共交通計画に基づいて実施する20事業

目標	計画で掲げる主な事業
①定住を支える公共交通	高校生バス通学支援、地域公共交通の運行継続、明知鉄道の運行支援、安全安心なバス停環境の整備 など
②観光と利用促進	公共交通を使った市内観光の推進、おでかけ情報の発信、インターネットによる経路検索の充実 など
③運転手不足の解消	運転手採用相談会 など

■ 2024-2025年度に実施した主な取り組み

★大集合！はたらくのりもの広場

②利用促進

公共交通に親しむ機会を創出！

- 子ども連れの親子をメインターゲットに、バス、タクシーの運転席の乗車体験、写真撮影ができるイベントを実施。
- 公共交通をPRするグッズの配布、事業者による求人募集も行った。

実績

令和6年10月6日（日）に実施
（10月六斎市の開催日）
市内交通事業者（4社）が協力
228家族 684人が来場



今後

アンケートから、「子どもが喜んだ」「今後もやってほしい」という意見が多かった。
イベントの内容や開催場所を検討しながら、
今後も定期的なイベントとしたい。

★落合地区コミュニティバスの利用増！

①定住を支える

コミバスに乗ってもらうきっかけに！

- 地域住民が買い物しやすいようにドラッグストア付近に新たにバス停を設置し、令和6年10月1日にルートを再編。
- ルートの再編に合わせ、無料乗車キャンペーンを実施。

実績

R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
24人	41人	45人	29人	38人
R6.8	R6.9	R6.10	R6.11	R6.12
36人	43人	156人	48人	43人

今後

無料乗車キャンペーン中は、試乗する人や団体での利用が多く、前年度比の約3倍以上の利用があった。キャンペーン後も前年同月比で利用者が増加しており、一定の効果があったと思われる。そのため、他地区でも同様の取組みを拡充していきたい。

■ 地域公共交通計画における評価指標の考え方

- ✓ 地域公共交通計画に基づく各種事業実施を通じ、
 - ①いつまでも中津川市に住み続けられる（高校生が自宅から通うことができる）
 - ②住民や来訪者による公共交通利用者を確保することを定量的に示す評価指標を設定している。
- ✓ 毎年度、評価数値に対する実績の評価、考察を行う。

■ 地域公共交通計画における定量的な評価指標

定量的な評価指標		①北恵那バス路線沿線地区内の高校生バス通学割合	②住民1人あたりの公共交通年間利用回数
基準年度	2021年度	25.3%	6.7回/人
目標年度	2026年度	25.3%以上	6.7回/人以上
実績【評価】	2024年度	25.5%【達成】	9.6回/人【達成】
	2025年度	24.4%【未達成】	10.6回/人【達成】
参考 ※地域公共交通網形成計画目標値	2016年度	30.6%	8.6回/人
考察		<ul style="list-style-type: none">沿線地区の高校生数は年々減少傾向にあり、定期購入者数も減少傾向。近年の物価高騰や運賃の値上げ等により家庭への負担が大きくなっているため、補助金額の増額を検討中。	<ul style="list-style-type: none">観光客が全体的に増加しており、馬籠線の利用者数が約4万5千人増加しており観光客利用が増えている。総合病院、地域診療所への通院により、加子母市民病院線や、恵那線（市民病院）の利用者が増加している。

■ 目標達成状況についての考察（路線別の事業評価概要）

区分	(上段) 利用人数、(下段) 達成率			主な考察・備考
	2021(基準)	2024(実績)	2025(実績)	
民間路線バス (補助系統)	253,025 -	339,753 134.3%	368,023 145.4%	○新型コロナウイルス感染症の5類移行後、利用が堅調に戻っており、 利用者数は全体的に増加している 。 ○観光客が全体的に増加しており、 馬籠線 の利用者数が 約4万5千人増加 している。 ○総合病院、地域診療所への通院により、加子母市民病院線、恵那線（市民病院）の利用者が増加している。
民間路線バス (非補助系統)	154,995 -	226,129 145.9%	241,099 155.6%	○学生の通学や地元企業への通勤で利用されている路線では、昨年度と横ばい、もしくは増加傾向にある。 △補助対象の坂下線の利用者数が減少傾向にある。
自主運行バス (廃止代替バス)	49,621 -	63,290 127.5%	68,757 138.6%	○小学生や高校生が通学、帰宅に利用できる便を設定した地区（坂下・阿木）では、 学生の利用により 、堅調に推移している。
自主運行バス (コミバス)	19,623 -	23,453 119.5%	25,285 128.9%	○ 買い物がしやすい路線に再編 した落合地区では、再編に合わせ無料乗車キャンペーン及び「おでかけレポートリー」の配布を行ったことで、前月よりも利用者数が増加した。（R7.9:43人⇒R7.10:156人） △通学利用がある地区とない地区では、利用の差が激しい。 × 頻繁に利用していた方が利用しなくなる。（ 利用者の高齢化 。認知症、施設へ入所、死亡など）
明知鉄道乗車数 (阿木・飯沼駅)	35,352 -	57,305 162.1%	64,621 182.8%	○新型コロナウイルス感染症の影響により約68,000人から約35,000人まで利用が減少したが、5類移行後回復しており、 コロナ前の約9割にまで回復 。 ○令和4年度から高校生通学バス補助金の拡大により、阿木地域の定期利用者が増えた。
合計	512,616	709,930	709,930	【参考】住民基本台帳人口（9月末） 2021（基準）76,553人 2024（実績）73,750人（▲3.6%） 2025（実績）72,716人（▲5.2%）

4.【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

【路線バスの利用増加】

赤字路線を延伸し、利用者数の増加に繋げる

現状

- ・ 地域間幹線系統である北恵那バスの坂下線の利用者数が補助要件を下回っている。
- ・ 中津川駅から馬籠宿への路線バスに観光客が集中している。

課題

- ・ 利用者数がこのまま減少していくと補助の対象外となってしまう。
- ・ 1つの路線に観光客が集中しているため、オーバーツーリズムが発生し、地域住民が利用しづらい状況。

対応

- ・ 競合となる路線を運行している事業者との協議
- ・ 坂下線を坂下駅から長野県の観光地である妻籠宿まで延伸し、中津川～馬籠宿～妻籠宿の周遊ルートを確認。企画乗車券の販売。

今後

- ・ 新設の路線であるため、利用者数や企画乗車券の販売数を注視し、さらなる利用促進に向けて周知に努めていく。
- ・ 路線の新設により、坂下線沿線地区の地域住民のバス利用に影響があるか調査が必要になる。



【コミュニティバスの利用増加】

地域の実情に合わせてコミバスのルートを再編し、利用者の生活を維持・確保する

現状

- ・ 地域住民が利用しているスーパーマーケットが急遽閉店することを発表。

課題

- ・ 今までスーパーマーケットを利用していた地域住民が、コミバスを利用して買い物ができなくなってしまう。

対応

- ・ 運行事業者と協議を行い、閉店直前に地元の商店にバス停を新設した。

今後

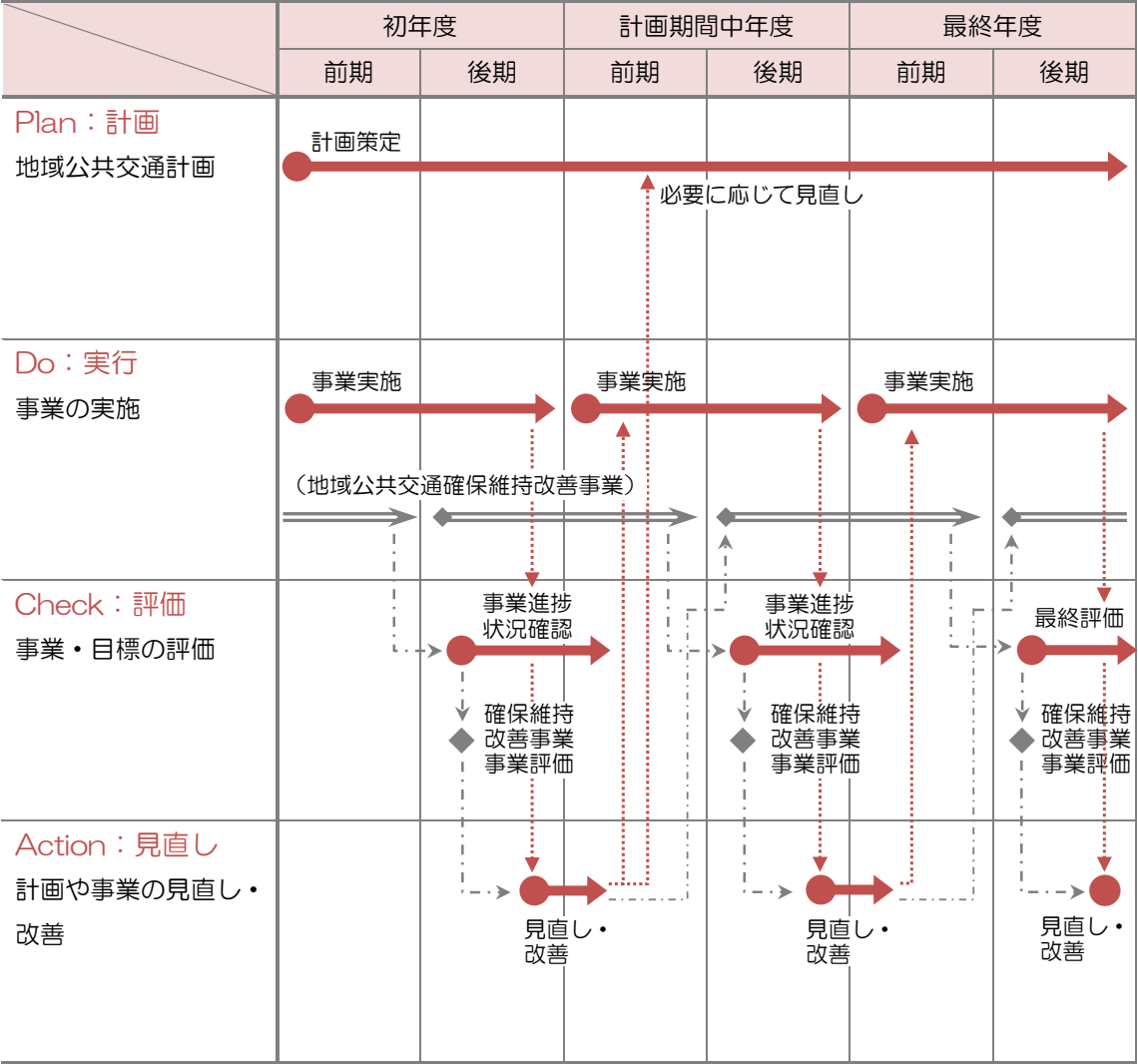
- ・ 同地区にドラッグストアが新たにオープンする予定。利用者の生活維持・コミバスの利用者数の増加に繋げるため、柔軟に再編していく。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<ul style="list-style-type: none">・今後も地域の声に耳を傾け、各種交通サービスの円滑な乗り継ぎが出来るよう交通ネットワークの構築に向け施策を実施されることを期待します。・コミュニティバスの「おでかけレパートリー」について更なる利用拡大の取組を期待します。・地域間幹線系統の坂下線が補助要件基準の15人を下回っているので、現状の把握に努めるとともに、関係者と連携して更なる対策を講じるようお願いします。	<ul style="list-style-type: none">・学生の通学や地域住民の買い物利用のために、コミュニティバスの起点変更やルートの再編に向けて、地域住民や交通事業者と協議を行いました。・利用が減少している地区や新設した路線がある地区で無料乗車キャンペーンを実施し、併せて「おでかけレパートリー」を配布することでコミュニティバスを周知したいと計画しています。・令和7年10月1日より、観光地である妻籠宿まで延伸し、利用者増を目指します。	<ul style="list-style-type: none">・今後も各地区の実情に合わせ、地域住民の声を聞き、ルートの再編等柔軟に対応していきます。・地域への周知（地域広報への掲載やチラシの配布）を無料乗車キャンペーンやおでかけレパートリーの配布を通じて、広く行っていきます。・新規の路線であるため、今後も利用状況を注視していきます。
前々回	<ul style="list-style-type: none">・コミュニティバス無料定期券の配布について、その後の行動変容に繋がった等の効果検証をし、活用することを期待します。・落合地区コミュニティバスの再編について、ニーズの高い目的地や乗り継ぎの円滑につながることを期待します。・コミュニティバスの利用増に向けて、各地区の魅力も合わせてPRすることを期待します。	<ul style="list-style-type: none">・今回も無料キャンペーンを行い、期間後の利用推移から、一定の新規利用に繋がったことを確認。合わせてアンケートを実施しました。・地域と協議し、ニーズの高い目的地を追加し、新たに路線バスに乗り継ぎできるようバス停を設置しました。・当市のコミュニティバスのメインターゲットは地元住民であることを踏まえ、地域の魅力ではなく、「コミュニティバスを使ったおでかけの仕方（おでかけレパートリー）」を合わせてPRしました。	<ul style="list-style-type: none">・アンケート結果から、現在の満足度、ニーズを確認。今後の再編に活かします。・ニーズの目的地が好調に利用されていることを確認しています。今後も利用状況を注視しながら、目的地の要望があった際は柔軟に対応してまいります。・今後も各地域に合ったおでかけレパートリーを提案していき、コミュニティバスの利用増を図ります。

※前回：令和7年3月27日、前々回：令和6年3月21日

■ 地域公共交通計画・目標の評価スケジュール及び直近の公共交通会議開催状況

● 本計画及び目標の進捗状況は、次の評価スケジュールに基づき進めます。



【公共交通会議実施状況】

- 第1回 令和7年6月19日
- 議題1
北恵那バス馬籠線（大久手経由）
の廃止及び廃止代替について
- 承認
- 議題2
地域公共交通計画（別紙）の認定
申請について
- 承認
- 議題3
中津川市地域公共交通計画の一部
改定について
- 承認

- 第3回 令和8年1月13日
- 議題1
付知地区コミュニティバスの運行
方法等の変更について
- 議題2
地域公共交通確保維持改善事業に
関する自己評価について
- 議題3
中津川市公共交通会議設置要綱の
改正及び財務規程の制定について